



預金を取り崩して暮らす60代夫婦 保有する金融資産が値下がり 別の商品に乗り換えた方がよい?

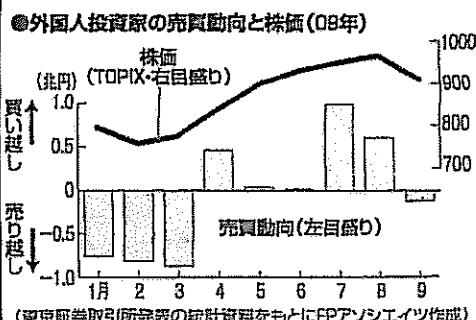
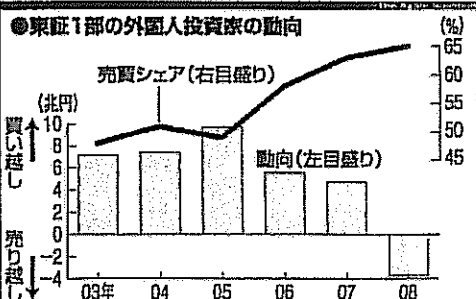
夫64歳、妻60歳。昨年の急激な円高で株値下落、保有する外国債券ファンド(600万円)と日本株銘柄(計600万円)が値下がりしてしまいました。現在、評価損が外債ファンドで60万円、日本株で200万円ほど生じています。預金も含めた我が家の金融資産全体を見ると、総額は2760万円になってしまいました。

2人の子供は独立。いまは預金を取り崩しながら生活し、家計の収支は年間1000万円程度(月平均10万円)の赤字となっています。今後の生活水準を下げないで暮らしていきたいので、そのための蓄えはもう少しおきたいです。評価損を抱えた資産について、このまま持ち続けて価格が戻るのを待つのか、それとも思い切って別のものに乗り換え方がよいのか、迷っています。

日本株は銘柄厳選 ■ 外国債券の割合増やす

株価の動きをすべて踏まけて、常に持ち続けるのは困難です。とくに円高から数カ月での短期売買はキャンセル的になり、勝ったり負けたりを繰り返すことが多くなります。値上がりすると早く利益を確定してたくて売却し、逆に値下がりすると損失が確定するのを嫌っていつまでも持ち続けてしまう。これもよくある話です。株価は、その企業がこれから生み出すたまたま利益を反映するといわれています。まずは保有する日本株の銘柄の企業業績についてからの見直しを確認することから始めましょう。上場企業のウェブサイトに「株主・投資家情報」や「IR情報」には、売上高、経常利益、純利益、株主還元などの財務内容が載っています。これを前期と比較したり、経営者のメッセージや今後の事業計画などをチェックしたりしてみましょう。このほか、株価に大きな影響を与えるのが相場関係です。実は日本の株式市場の主役は10年以上前から外国人投資家です。最近では総額買付金の6割以上を外国人が占めています。

外国人が大量に日本株を買ったこと(1)買った額が売った額を上回る(2)07年は、株式市場全体



年数	1%	2%	3%
15年	13.865	12.849	11.938
20年	18.046	16.351	14.877
25年	22.023	19.523	17.413
28年	24.316	21.281	18.764

これは為替変動と関係してきます。相手が保有する外国債券ファンドは米ドルやユーロに対して円高になれば、現在のように為替差益が評価損に転換する恐れがあります。このほか、株主が日本株と外国債券ファンドを保有しているのは適切です。日本株と外国債券の相違点は、中長期的には反対方向に動く傾向があるからで、問題は保有比率でしょう。日本株の相対的地位が今後どうなるか、注目していかねばなりません。

「これは為替変動と関係してきます。相手が保有する外国債券ファンドは米ドルやユーロに対して円高になれば、現在のように為替差益が評価損に転換する恐れがあります。」

「外債は日本株の1.2倍ほど保有するのが妥当な気がします。」

「このように考え方は、相手が具体的な見直し案を示せば、日本株は保有する銘柄を選別し、それ以外は売却。日本株の倍の金額まで外国債券ファンドを増やします。いずれも売買時期を数回に分けて行い、最終的には外国債券と日本株への投資を資産全体の4割程度にする」といいます。

FPアンソニー・エイツ&コンサルタント
ファイナンシャルプランナー
植田 啓太